

農山漁村地域整備計画における事後評価

【計画の概要】

計画の名称 小笠原諸島における外来樹木排除による野生生物共生林整備計画
計画策定主体 東京都
対象市町村 小笠原村
計画の期間 平成23年度～平成27年度（5年間）
計画の目標 世界遺産レベルの小笠原諸島独自の島しょ生態系を脅かす、アカギやモクマオウ等の侵略的外来樹木を排除し、小笠原固有の野生生物と共生できる森林・生態系の回復を目指す。
定量的指標 〈希少生物確認数の増加〉 侵略的外来樹木により、餌資源（固有樹木の実）が減少しているアカガシラカラスバト（国内希少野生動植物種）の確認個体数を、43羽から50羽に向上させる。

【評価】

交付対象事業の進捗状況 小笠原村父島において、侵略的外来樹木のアカギやモクマオウ等を延べ33.3ha排除した。 ○進捗状況 74%
事業効果の発現状況 侵略的外来樹木のアカギやモクマオウ等を排除することにより、小笠原固有の野生生物と共生できる森林・生態系の回復ができています。
成果目標の目標値の実現状況 平成27年度末時点のアカガシラカラスバトの非繁殖期における目撃個体数526羽 ○達成率 1052%
今後の方針 今後も、環境省、林野庁、小笠原村等の関係機関と連携しながら、アカギやモクマオウに加え、ギンネムやキバンジロウ等の侵略的外来樹木の排除を進めていくとともに、これまで排除を実施した地域においても適切に保全していく。